

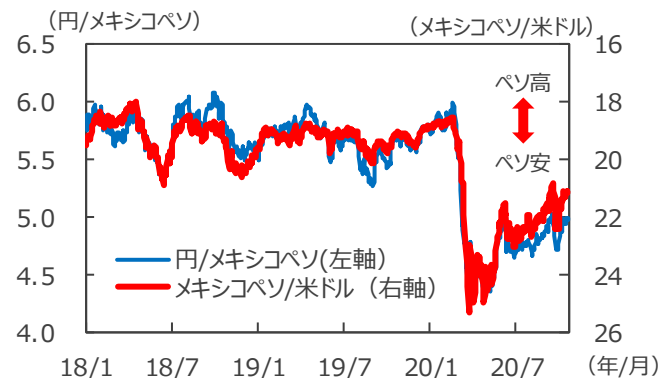


今日のトピック **ラ米通貨の優等生、メキシコペソは堅調推移  
利回り追求の動きなどがサポート**

**ポイント1** **メキシコペソは上昇**

- 足元のメキシコペソは堅調に推移しています。10月20日現在、対米ドルで前月末比4.71%、対円でも同4.72%上昇しています。
- メキシコペソは7月以降、世界的な景気回復期待の高まりを背景に反発してきました。市場にリスク回避的な動きが広がった9月は下落しましたが、総じて上昇基調を維持しています。各国・地域で積極的な金融・財政政策が実施される中、メキシコでも9月に11会合連続となる利下げが決定されましたが、市場の利回りを追求する動きが、先進国比金利水準が高いメキシコペソの支援材料になっているとみられます。

【メキシコペソ】

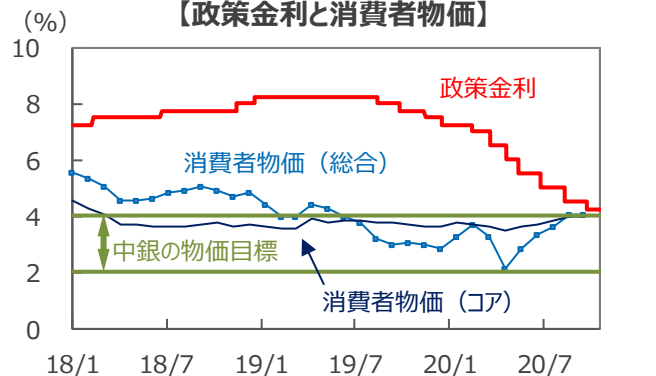


(注1) データは2018年1月2日～2020年10月20日。  
(注2) メキシコペソ/米ドルは逆目盛。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**ポイント2** **米国に追随し景気回復も、見通しは慎重**

- 一方、メキシコ経済はコロナ禍などから大幅に悪化しました。6、7月にかけて回復し始めましたが、中銀は不確実性とダウンサイドリスクがあるとして、今年の実質GDP成長率見通しを▲8.8%～▲12.8%と発表しました。
- 弊社では、今年の実質GDP成長率見通しを▲9.3%、2021年は同+2.5%と予想しています。メキシコの財政政策の不足などから、2021年の見通しを市場予想に比べ慎重にみえています。金融政策では、今年更に0.25%の追加緩和を行うと予想します。

【政策金利と消費者物価】



(注) 政策金利は2018年1月1日～2020年10月20日。  
消費者物価は前年同月比、2018年1月～2020年9月。  
(出所) Bloomberg L.P.、メキシコ中央銀行のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 **新型コロナ感染状況、米国経済・大統領選の先行きを注視**

- 世界的な金融緩和環境、利回り追求の動きなどから、メキシコペソは引き続き底堅く推移することが見込まれます。ただし、新型コロナの感染再拡大や米中対立の深刻化などからリスク回避的な動きが強まれば、メキシコペソの上値は抑制されると考えます。また、メキシコ経済は米国経済の影響を大きく受けるため、米大統領選や景気の動向には注意が必要です。足元上昇しているメキシコの物価についても同様です。

**ここもチェック!** 2020年9月28日 **メキシコ銀行は11会合連続の利下げを実施**  
2020年8月24日 **新興国金融政策まとめ**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。